

俳句

大津俳句会

暗がりの枝うごきだす穴惑あなまどい

井芹真一郎

新米や光の粒を握りけり

秋山 恵子

鵲鳴くや途絶えて久し友の文

市原 初女

労農の昔語りの草泊り

江藤 みち

栗拾ふお寺参りの手土産に

大塚喜久子

穏やかな大阿蘇連峰今朝の秋

坂本 セキ

知らぬ間にコスモス咲ける散歩道

佐賀 久子

凜として雨に華やぐ彼岸花

松尾 昭雅

父母眠る里にも月よ照らしませ

岡崎 浩子

母の味辿りて長き夜の厨くりや

森山美穂子

俳句

つのはな句会

不知火海に惜別を書く秋落暉しらぬい

星永 文夫

新涼やマスクゆるめて待つ信号

塚本 洋子

秋の蝶しろがね色の羽根畳む

榮田シノブ

蓮の実飛んで オンライン化が足元に

志賀 孝子

月が哭くコロナ禍の街

田上 公代

木の実降る森に新美にいみのぐん狐

木庭 杏子

総ルビの紙面をおおう鰯雲

上杉 波

柿熟れて村の隙間を埋めていく

矢嶋 道子

羽パタパタ私もひとり秋の蝶

水野 春子

引きだしの青い図面をだして秋

梅木トキエ

短歌

大津短歌会

紛れなく芯まで白きバイカウツギ
人恋うごとく庭隅に

豊岡ミツル

だんご虫チヨロキユーみたいその動き
体の線はまるくなる為

坂本 杲子

せせらぎの音消ゆるがに鳴く蟬よ
恋に焦がれし日々の顚たち来る

渡邊佐代子

梅雨明けて暫し現る水溜り
そよ風吹きてさざ波の立つ

鞍 岳志

土の香を持ちて集いし村人は
黒子となりて文楽守る

吉永 恵子

長き夜の明けを待ちわぶ日々
友のテレホン耳元あつき

管野 静

女子テニス頂点極むアスリート
差別に抗議生き方を問えり

小平 善行